

会 議 録

会 議 の 名 称	第 1 回弘前市社会教育委員会議
開 催 年 月 日	令和 3 年 7 月 30 日 (金)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午前 10 時 00 分 から 午前 11 時 33 分まで
開 催 場 所	岩木庁舎 多目的ホール
議 長 等 の 氏 名	委員長 生島 美和
出 席 者	生島 美和 委員長 ・ 佐藤 義光 副委員長 相馬 伸光 委員 ・ 古川 和生 委員 ・ 成田 むつ子 委員 小川 亜生 委員 ・ 川越 俊昭 委員 ・ 越村 康英 委員 山形 勝彦 委員
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	生涯学習課長 原 直美 中央公民館長 中川 元伸 博物館長兼高岡の森弘前藩歴史館長 石岡 博之 文化財課長 小山内 一仁 生涯学習課課長補佐 山崎 宏 図書館・郷土文学館運営推進室長 高橋 晋二 生涯学習課企画係長 竹原 正澄 生涯学習課企画係主事 成田 妃呂美 生涯学習課企画係主事 小笠原 溪
会 議 の 議 題	①弘前市総合計画後期基本計画策定のための意見聴取について ②委員長、副委員長の選出 (任期 令和 3 年 8 月 1 日～令和 4 年 7 月 31 日) ③ひろさき教育創生市民会議委員の任期満了に伴う次期委員選任について (任期 令和 3 年 9 月 3 日～令和 5 年 9 月 2 日)
会 議 結 果	・「会議の議題」にもとづき説明し、各委員からの質問や意見を伺った。

<p>会議資料の名称</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 【事前配布資料】 ・ 弘前市総合計画前期基本計画（抜粋） 資料 1 及び 2 ・ 弘前市総合計画前期実施計画（抜粋） 資料 3 【当日配布資料】 ・ 聴取した意見の活用具体例 ・ 社会教育委員のスケジュール一覧表（予定）8 月以降
<p>会議内容</p> <p>（ 発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等 ）</p>	<p>○第 1 回社会教育委員会議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 新委員紹介 4. 会議 5. 閉会 <p style="text-align: center;">~~~~~</p> <p>会議 （議長）</p> <p>令和 3 年度第 1 回弘前市社会教育委員会議を開催いたします。</p> <p>弘前市社会教育委員の会議運営規則第 4 条により、会議は、在任委員の半数以上が出席しなければ開くことができないとなっております。</p> <p>本日の出席は 9 名の出席をいただいております。定数に達しておりますので、会議は成立いたします。</p> <p>会議録の署名委員は、古川和生委員、成田むつ子委員にお願いします。</p> <p style="text-align: center;">~~~~~</p> <p>案件 ①「弘前市総合計画 後期基本計画 策定のための意見聴取について」</p> <p>（事務局から「弘前市総合計画後期基本計画策定のための意見聴取について」説明）</p> <p>（議長）</p> <p>それでは意見聴取に入りたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>山形委員お願いいたします。</p> <p>（山形委員）</p> <p>最初の「目指す姿」で、「多様な学習ができる整った環境が提供されている」というところが、どういうものが「多様な学習ができ、整った環境」なのか、もう少し具体的であってもいいのではないかと。情報的なものが整った環境なのか、やれば進む姿があるのかなど。あるのだけ</p>

ど何をやっているのかが見えないということで、もう少し具体化されてもいいのではないかと。特に市内小・中学校ではコンピュータで情報化はやっていても、社会教育関係は整備が遅れている。集まるというところであれば何かメリットがある、集まっていく環境というのがすごく大事かと思います。市内スーパーでも飲食店でも Wi-Fi のあるところに人が集まっていく。これからの世の中は情報を上手く取り入れていくことで、整った環境や充実しているところに人が集まってくるしメリットがあるのではないかと。特に若者。子どもたちでも今すぐにコンピュータをする時代なのです。

もう一点、資料によってデータが違っているのはどうしてなのか。また、だんだん減っているのは、昨年度はコロナ禍でもあるので減っているのはやむを得ないのですが、中身が見えないので。公民館活動が減っているけれども参加者が多いとか学びが増えたとか、少し見えないので。講座が減ったのかとか同じ人が参加しているのかとか。もう少しデータがあれば、進むべき方向性などもわかってくるのではないのでしょうか。

(議長)

ありがとうございます。先にデータの違いについてご説明をお願いします。

(生涯学習課長)

カラーの資料は総合計画を策定する最初のデータになっておりまして、モノクロ縦長の資料はその後の中間項目を加えた数字になっております。資料作成する際に当初作成した時の資料を使ってお示ししたので、内容の違いというのは当初策定した時の状態で、データのほうはその後の中間の部分も含めて出しているものになっております。

(議長)

ありがとうございます。計画は毎年見直しがされるので、データはいつも最新のものが出ているということです。目指す姿や現状課題といった文言はそれほど変わらないのですが、データだけは最新のものに差し替わっているということです。データについては A3 判が一番新しいものということ、ご理解いただければと思います。

公民館で実施している講座への参加者数につきましては、2019 年度のデータが一番新しいもので、となると、これはコロナ前だと思います。コロナ前であっても下がってきているという分析ができるかと思えます。この辺りのことも含めまして、どういう方向性が目指されていくのかというご意見でもありますし、この指標が妥当なのかということも含めてご意見いただいてもいいかなと思っております。

それから山形委員がもう一点、最初にお話いただいたことについて、多様な学習ができる整った環境というのが非常に漠然としているので

はないかということで、一つは Wi-Fi 環境等これからの学習を展開していくにあたって必要な機器や環境ということもそうだと思いますし、インフォメーションとしての情報というものも必要だというお話として受け止めてよろしいでしょうか。情報機器の環境の部分と情報提供という意味での情報というのをご意見いただいたと受け止めていただければと思っております。

付け加える形でも結構ですので、ご意見頂戴できればと思いますがいかがでしょうか。

越村委員お願いいたします。

(越村委員)

弘前市のこういう計画というのは、ロジックモデルも作りながら、それを1年1年点検して進行管理をしていくところで、非常に整った形で作られているなという印象を持っております。そのようにやっていくのであれば、目標値というものも、その時その時の状況を踏まえながら、適切に修正していくということもあり得るのかなと思います。

例えば、2022年度に向けて、生涯学習活動をしている市民の割合35%。コロナの状況の中で学ぶ機会が制約を受けていて、当初設定した数値を達成するのがかなり難しくなっていて、社会の状況を踏まえながらも、柔軟な設定の仕方、変更の仕方を考えるべきではないかと思いますが、その辺りはいかがでしょうか。

(議長)

これは次の4年間の中で目標値も変えていったほうがいいのではないかと、ということよろしいでしょうか。

(越村委員)

そうです。1年1年と言ったのは資料3のほうで、色々な事業がありますけれども、その年の状況を踏まえながら、徐々に変えていくということも必要ではないかと。

(生涯学習課長)

目標値の修正ですが、大きく状況が変われば変更ということになるのですが、今考えるものとしては今後4年間を見据えて状況に応じながら、毎年更新する際に計画事業等の変更などをしていきます。詳しい中身ということであれば、個別に事務局の方から回答しますけれども、回答が長くなると委員のみなさんの話し合う時間が短くなると思いますので、もし必要であれば後ほど事務局で調査して回答という形で構いません。

(議長)

では、私のほうでコメントができればご回答しながらいきたいと思っております。総合計画の目標値は4年後を見据えて作るけれども、審議会の委員が毎年会議をし続けています。計画策定の時だけ集まっている

わけではなく、きちんとそれが遂行されているかということ、毎年チェックをし続けています。今回は4年後を見据えてということになっています。目標値が4年後になっていますから、その辺りはお理解いただければと思います。今回は大きな枠組みをどう作るかということになるかなと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

少し私のほうからも意見させていただければと思います。一つは、公民館で生涯学習をしている市民の割合というのが、どのように取られているかということです。「市民アンケートを使いながら、『生涯学習活動をしていますか』という質問に対しての答え」なのですが、市民の中でも生涯学習をどのレベルで捉えるかによって、かなりここでふけさめがあるのではないかなと思います。市民アンケートの項目に、「生涯学習活動をしていますか」というものがある一括してとられるのだと思いますが、これからアンケートするにあたって、「(習い事、趣味、ボランティアなど)」という事例が果たして適切なかどうか。町内会活動ですとか公民館での学びですとか市民サークルとか、そういったものを少し具体的に例示していただくと、かなりパーセントも実態に近いものになって、その指標というものも少し基準値から高くなる。35%がいいのかどうなのかとは思いますが、生活実態に合わせたことが聴けるような問いを設定してもらい、ということが必要ではないかなと思います。

もう一つは、現状と課題を把握するにあたって、公民館の講座の参加者数が減少していることをどう評価するか、ということです。一つは、この指標を「公民館での講座への参加者数」とすることについては総合計画の審議会でも、これが本当にいいのかどうかということは異議を呈したことがあります。というのは、公民館の参加者数を増やすために公民館が努力しようとする、人受けする講座になっていく。たくさん人が来ればいいという講座になっていってしまう。実際の地域の課題を汲みとった講座になっているのかどうか、となるとちょっとずれてくる。たくさん人がくればいい、楽しい講座、funnyな講座ばかりになってしまう。公民館が目指すところは、ただ人を集めるだけではなく、そこから自主的な学び、学習者を作っていくことであるから、いかにこの講座がサークル化したかとか、サークル活動で公民館を利用している人たちがどの位いるのかとか、そういったことまで考えていくことが必要なのではないか、この後も考えていく必要があるのではないかなと思います。

もっと言うならば、弘前市の場合、公民館があるし講座はされていますが、地域に、例えば泉野にコミュニティセンターがありますが、貸館をしながらサークル活動をすごく熱心にされていて、そこで行われて

いる自主的な学習やサークル活動というのが、生涯学習とかこういった中に入っていないかという、学習者の実状としてはあるのではないか。それが果たしてコミュニティセンターでいいのかどうかはまた別途あるとしても、学習者の実態を捉えるという意味では、そういった中で市民サークル活動をされている方たちの人数とか利用者層とか、そういったものを分析対象にするということも一つは考えられるのではないかと思います。講座への参加者数ではなく、弘前市の中で活動している市民サークルの利用者層や利用者数というのは人数でとられていると思いますので、そういったものを入れていけばいいのではないかと思います。必要に応じて、それが市民センターではなくて公民館であるということが必要なのだという根拠になっていくかもしれないと期待しています。

関連していることでもよいですし、何か思いつかれたことがありましたら、ご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。

成田委員お願いいたします。

(成田委員)

弘前市市民意識アンケートとは、誰にどのような間隔で行っているか。誰にというところで、それぞれの対象によってはその対象の割合がどうなのか、どこを目指すのか、全体なのは分かるのですが、その後の結果から色々な政策に反映された施策になっているのか。つながりが知りたいです。

(議長)

ありがとうございます。市民アンケートにつきましては、事務局から説明いただければと思います。

(生涯学習課長)

市民アンケートですけれども、年齢、性別、年代とも無作為抽出でとっています。毎年調査対象が変わっているのですが、年度によってそこは移動しています。おおよそ同じ項目で行っているのですが、年度によって加えられる項目と引き続き行う項目があります。抽出してアンケートを行っていくものです。

(議長)

年代ごとに無作為抽出をして行われているということでした。

(成田委員)

どういうところから目標値が出てきたのですか。

(議長)

35%の目標値ですか。事務局からお願いします。

(生涯学習課企画係長)

基準値は、市民アンケート 2018 年の基準値をもとに庁内で検討し 35%に設定しました。

(議長)

2018年度の23%を基準に考えて4年後にどのくらいまで増やすかということで、総合計画の審議会等でもあまり離れすぎていると無理でしょうということがあって、4年後なのでこの位までなら伸ばせるかなとか33%が三分の一だとするとそれよりは越えてほしいよね、といった議論が進んでいるのは目に浮かぶ姿かなと思います。

直近はどの位かわかりますか。つまり2020年度結果か、2021年度結果がありますか。

(生涯学習課企画係長)

本日は具体的な数値は持ち合わせておりません。

(議長)

具体的な数値は来年度、計画を作るときに最新のものを入れ込んで数値を設定するかと思いますので、このまま35%がスライドすることではないと思います。

山形委員お願いいたします。

(山形委員)

アンケートですけれども、年齢層でどれくらい参加とか、その辺りが大事なのではないか。それによって、若年層を狙った講座にするとか。若者も何かやりたいのですよね。先ほどクラブの話がありましたが、弘前市はそんなにクラブがないとか。そうすると、公民館にきてクラブをやって集まる場所とか講座をやるだけではなく、集まれる場所なのだとか場所の提供なのだとか、どんどん来てくださいと若者を呼び込むこともできる。年配層は町会をみていると同じメンバーが参加しているというのが見えてくる。その辺りで全然アプローチの仕方も違われ、そのようなデータのほうがいいのではないか。

(議長)

ありがとうございます。山形委員からの今のご意見は成田委員のご意見ともつながってくると思います。学習実態上の市民の割合を年代別に分けてみて、そしてその年代に即した学習課題だとかそういうものをくみ上げるような学習機会の提供を立体的に考える必要があるのではないか、というご意見として受け止めていくことになるかと思えます。

これは、この意見を反映しながら具体的な内容、次期の計画を作ることにつながっていくと思います。現状と課題のところにも、「学習者の年代や実態を分析しながら、それに合わせた学習機会の提供を」、ということを行うというようにして、書き加えたいというのが意見になるかなと思います。

加えることがありましたらご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。

佐藤委員お願いいたします。

(佐藤委員)

推進ということで、一つは目指す姿。それからここにはないのですが、改善していく。推進をしていくために今期はどういう改善をして、進めていくという統計もあって、その改善というのは。例えば資料の61ページにありますけれども、写真で具体的な活動が表されています。例えば、改善という意味では、コミュニティの集合する場所として公民館や町会の集会所とか、色々な所があります。多目的に集まる場所もあります。私の身近で、何人かが集まって活動する場所として、公民館もそうですけれども町会の集会所を使って韓国語の勉強会を月に一回行っているグループもあります。近くに教会があって、クリスチャンではなくても教会の方が色々教えてくれて、習いたい人が月に2回程度1時間半位行っている。公民館というと、私も近くの公民館に行ったりしますけれども、イメージとして、暗いです。選挙の会場、敬老会、サークル等のイメージです。公民館のイメージアップといいますか、そのようにするためにこういう改善をしていきます、皆さんご利用くださいとか。集会場も利用してほしいし、より一層公民館を使ってほしいので、例えば、公民館の周りの花の整備、散歩の途中に集う場として。将来教育の中で、学ぶことが中心だとは思いますが、年を取ってくると学ぶのもいいのですが集う場所でもあってほしいと思います。そこに集まって、何かを吸収して刺激を受けて、そこに集まった人が繋がって、いい意味でサークルにつながる。1人暮らしの方もそこに参加して、何か話し合いをしてつながっていく。今までの公民館から一層明るい開放的な場所へ。以前生島委員長がおっしゃっていた、大学生が使いたいけれども色々な規約があって無料では使えない、あれは逆行しています。なかなか使う人がいない中で、若い方が使いたいのであれば大学生と会話しながら、賑やかに変えていくことも地域を明るくし、若者が活動しているといい刺激になるのではないかと。この基本計画の具体的なことではありませんが、その土台として、公民館のこれからの在り方、こうしてまいりますのでご利用くださいというものを、後期の方針に入れていただければ幸いです。

(議長)

佐藤委員ありがとうございます。先ほど山形委員からもお話があったような、例えば多様な学習機会ができる整った環境が提供されている。その具体的なところとして、目指す姿も学習環境もそうですが、「集い」、「学び」が交流できる場というのが、多世代にわたってなどと入れていただくと、お互いの意見が交錯しながらよりいい具体的な像というのが出てくるのではないのでしょうか。

現状と課題も、公民館等が気軽にどんな世代でも集える場所になり

えるような取り組みの工夫を。単に事業やイベントを実施するのではなく、立ち寄れる場所がそのようなイメージかなと伺っていたのですが、ニュアンスが、現状と課題が出てくればよいのではないかと思います。

ほかにはいかがでしょうか。少し違った意見でも。

山形委員お願いします。

(山形委員)

集ってただ学ぶだけではなくて、そこにどんな要素が必要なのか。学生時代にスキルアップとしてレクリエーションの講座に行ったのですが、公民館や色々なところから来ているのです。学びだけではなくてレクリエーションのような楽しい要素がないといけない。よい例として委員長からもありましたけれども、自主的に楽しみがないと集まらないし続かないと思います。そのようなレクの場合であってもいいと思います。あまり堅くならないで公民館もそのような要素もあっていいと思います。

(議長)

はい、ありがとうございます。ゴールだけを設定するのではなく、プロセスの部分もきちんと投影できるような計画にということだと思います。その1つが継続、学習の継続という視点かなと思います。ありがとうございます。

公民館だけがその場ではないのですが、例えば学校からの視点とか、学校との連携とか、そういったところで学校の立場から古川委員いかがでしょうか。

(古川委員)

学校の立場からは無いのですが、なぜ学ぶのか、なぜ集うのかということだと思います。考えていくと、生きがいなのか。生きがいにつながる学びとか活動とかをしている弘前市民を増やすことが一番の取り組みになるのかな。この指針の中でも、生涯学習活動をしている市民の割合という言い方がしっくりこない感じがします。生きがいづくりにつながる学びや人の数を指針にしてみて、その上下を見ていく。そしてその市民を増やすために、生きがいを持ってもらうために、公民館とか色々な生涯学習という模索があるのではないかと捉えていったらいいのではないのでしょうか。

(議長)

ありがとうございます。非常によい指摘をいただいたのではないかと思います。生きがいにつながる学びをしている人たち、若い人たちからすると生きがいという遠い感じもするかもしれませんが、働きがいとか、暮らしがいとか、そういうものもあるのかもしれないです。生涯学習をしている人というよりは、そのような表現のほうが馴染みが

よいかなと感じます。市民アンケート項目との連動もあるかと思えます。これからとっていくことに関しては、新しく具体的な視点になるのかなと思ってお伺いしておりました。

組み込んでいけるようご検討いただければと思います。

相馬委員いかがですか。

(相馬委員)

皆さんのお話を聞いて勉強になりました。先ほど山形委員のほうからもありましたアンケートで世代の部分の参加状況とか意識を、はっきりつかんだうえでどのように改善していくのかが大事ななと思えます。三大学区に4月から赴任しているのですが、活動されている方は20年～30年同じ方がずっと活動されていて非常にありがたいのですが、その次の代が、どこの町会でも育っていない部分があるのではないかな。そういう意味で、ターゲットを30～40代の世代に下ろしていく必要があるのではないかな。30～40代と考えたときに、小・中学校のPTAの子育て世代がそこにあがってくるのかなと。なかなか、PTA活動はするのですが子育てしながらですので、PTAの役員の方はそれなりにボランティア活動をしたりしていますが、それがなかなか生涯学習のほうにはつながっていきにくいというところもあります。子どもがいるから仕方なくやっているという方もいらっしゃるのですが、そのようなところに光を当てて、そこで活動したことが生きがいとか人生を豊かにすることにつながるのではないかな。公民館や地域の活動につながるような仕組みがあればこれからのいいのかなと思って、そういうところで世代の状況を把握することが大事なのかなと思えます。

生きがいという点では、去年、今年とねぶたが中止になっていますが、弘前はねぶたで、今年も去年も何が何でもやるという人がいて、繋げたいという思いでそういうのも一つの社会活動である。そのねぶたや登山囃子を継承していくというところを下支えできるような何かがあればいいのかなと思えます。

(議長)

ありがとうございます。今、大きく二点のことをご意見いただきました。一点目の、多世代に渡って特にブラックボックスになってしまっている30～40代、まさに子育て世代、PTAの世代が担い手になっていないというのは、学区まなびいの状況を見ても非常によく分かるところだと思います。社会参加ですとか生涯学習につなげていく仕組みというのを何か作れたら、ということは現状課題に書き込んでいただければと思います。また、今のお話を伺って、具体的な施策としてPTA活動と学区まなびいの運営を上手くリンクさせていけるような取り組みにテコ入れをしていくことがずっと課題になっていることですので、必要なのではないかなと思えます。学区まなびいも若い担い手が

いないという点がよく課題になりますけれども、逆にいうと上の世代の人たちが、「自分たちがやらなければならない」というようになっている。下の人たちに譲っていないというところもあるのではないかと。そういったところの循環の立て直しや PTA との連携、まさに学校と地域の連携というところで進めていただければいいのではないかと思います。

それからもう一つ、伝統文化のねふたや登山囃子について、地域に根差している伝統文化を子どもたちに伝え、担い手をつくっていくということは生涯学習の部分でも必要になってくると思います。弘前の特性として別の部分でも総合計画の中に入ってくるかと思いますが、大きな視点で出して欲しいなと思います。観光も人を集めるだけでなく、理解して自分たちのものにしていく視点で、生涯学習のほうでも落とさずに入れていければいいのではないかと思います。ありがとうございます。

小川委員、子育ての立場からどうでしょうか。

(小川委員)

参加してみたい気持ちもありますが忙しいというのが現状で、その中で果たして、広報や子どもが大量に持ってくるプリントの中から、自分がどれに行こうかを選び出すことは難しい作業で、広報とかプリント以外でも心を揺さぶるような、行きたいと思わせるようなアピール方法はないのかなと思います。選ぶ側が行きたいと思わせてくれるような学びがあれば、忙しくても行くのではないかなと思います。

(議長)

子育て世代の学習者としてということによろしいでしょうか。

(小川委員)

30代、40代ではなかなか、広報等を見て行きたいと思わないのではないかなと。60代の人などがちょっと行ってみようかなと思うような内容が多い。40代の人時間が割いてまで行きたいと思うような内容のものが無い。子どもとプラネタリウムを見に行こうなど子どもを絡めてなら行くけれど、40代単身ではなかなか。アプローチの仕方が、広報やプリント以外にもあればよいのかなと思います。

(議長)

例えば講座に参加するだけでなく、むしろ仲間同士でこういうことをやってみたいとか、そのようなことを仕掛ける側とか。子どもたちや広く多くの人たちと一緒にやりたいなというところからの参加や参画という形ではいかがでしょうか。

(小川委員)

私は県外出身ということもあって、この自然を生かさない内容が多いと感じています。それを豊かだと思っていない市民が多いかなと。当

たり前にあるからそれが素晴らしいことだと思っていなくて。この素晴らしい環境をもっと学びで教えていって欲しいと思います。登山とかだと疲れてしまうとかあると思うのですが、岩木山とか八甲田をもっとアピールしていくことが大事だと思います。

(議長)

親子でそういうものもあつたらチャレンジしてみたいということですね。今、一つ具体的な課題としては、地域資源として伝統文化もそうですけれども、それだけではない。自然を生かしてここでしかできない弘前のこと、親子だからこそできるレクリエーション、アクティビティとか。そういった形も参加を促すことになるかと思ひますし、小川委員のようにアイデアをもっている市民のアイデアを取り入れたり、または企画者に入ってもらったり、そういったところから若い世代の人たちの生涯学習への導線というものも作れるのではないかなど。この年代は受け身なわけではないので、もっとやりたいことが実現できる、何か環境というものも必要なのかなど伺っておりました。

ほかにはいかがでしょうか。

川越委員、ご意見いただければと思います。

(川越委員)

今、小・中学校が夏休みになっています。私は子ども会を担当していて、夏休みでラジオ体操をしています。昨年はコロナで臨時休校などがありましたけれども今年はなく、我々も昨年は子ども会でラジオ体操ができなかったのですが、今年ラジオ体操をする町会が多くてよかったなと思っています。

各地区公民館に少年教育指導員がいらっしゃいます。少年教育指導員が各地区の町会の少年団体と連携をとりながら子どもの活動を高めていくという立場にあります。私は地区の少年教育指導員と子ども会と連絡をとりまして、公民館が主体になって、子どもの活動をしていています。

今、夏休みですけれども、ラジオ体操が終わった後に公民館でラウンドゴルフをやろうかという話が出まして。ラジオ体操が終わった後に声掛けをして地域の子もたちが集える楽しい場所になるように。

各町会で子ども会があるのですが、その子ども会を世話している青少年育成委員と各地区公民館の少年教育指導員が密に連絡をとって、子どもたちが公民館に行って楽しい雰囲気づくりや公民館づくりをしていくと、子どもたちも足を運びやすいのではないかと。学校の勉強だけではなく社会勉強、社会教育として活性化していくのではないかと思っています。公民館の少年教育指導員と町会の青少年育成委員が連絡をとって公民館活動を活発にしてほしいなと思います。

(議長)

ありがとうございます。子ども会に関わられている立場からということでしたけれども、今、非常に大切なこととして、子ども会ですとか、公民館におられる少年教育指導員との連携、これが密にされることによって教育環境が作られていくことが必要だと思います。これを少し大きな課題として引き取っていきますと、他機関と多様な人材の連携協働ということが非常に注目されていて、生涯学習体制をつくっていくうえで、今ご指摘があったとおり、子どもでいえば子ども会、地域の団体と指導員、職員との連携です。他機関との連携というのは、来期こそ明文化していかなければならないことではないかと思います。学習環境をつくっていくことに、具体的に子ども会と公民館の職員との連携、地域の団体との連携ということを入れていただければいいなと思います。

ありがとうございます。

(成田委員)

ラジオ体操やそういう一つのきっかけを通して、学校だけでなく、地域の人参加してくださいとか、そういう呼びかけもしていけばまた違ってきますよね。そこで顔見知りになり、夏休みだけでも一緒にと。

(川越委員)

結構、親が連れてきます。その場で、この子の親はこの人とわかるから、その場で保護者と地域とか地域同士の連携とか繋がりができます。

(成田委員)

PTA としてなど、きっかけとは何をきっかけにするか。このきっかけでどういう繋がりをつくるかということを考えていけば。ラジオ体操で繋がりができるのではないか。

(川越委員)

はじめて会った方でも話をして、あとはコミュニケーションをとって仲良くなっていく。

(成田委員)

そのようなきっかけを逃さないでいかないといけないなど。新しいものをつくるのは大変なので、あるものを生かしながら、ではどうしていくかということも大事なかなと思います。

(議長)

今成田委員からもお話がありましたけれども、人口減少で高齢化もしていて、あるものを生かしながら繋げていくことで充実化させていくことは非常に大事な視点かと思います。

越村委員お願いいたします。

(越村委員)

感想ですが、さきほど小川委員のおっしゃったことは、私も移住者なのでごく気持ちがわかります。私のような外から来た者にとって、弘前の地域でつながりをつくって生きていく時に、きっかけになるような取り組みが社会教育、生涯学習のほうで増えていくといいなと思います。

もう一つ、皆さんのご意見を伺っていて大事なキーワードが出てきたのですが、「集う」、「繋がる」ということ、「生きがい」、「暮らしがい」、「働きがい」、ということも出てきました。また、ねふたをはじめとした伝統文化、これらは今回コロナの中で随分制約を受けてしまった部分かなと思います。後期計画 4 年間は恐らくコロナが終わった後の社会だと思いますので、コロナ後の社会、コロナ後の弘前というところで、コロナの中で弱くなってしまったようなところだとか、学ぶとか伝統文化とかその辺りにもう一度光を当てて、社会教育として何ができるのかということのを計画の中に入れていくことが大事かなと。コロナ後という言葉も計画の中にあってもいいのではないかと思います。

(議長)

はい、ありがとうございます。恐らく全体の中でかなり意識されてくるかと思いますが。こちらの生涯学習推進という意味でも、学びを止めないためにも with コロナ、after コロナを意識的に考えていくということが必要だというご意見だったかと思います。ありがとうございます。

はい、では佐藤委員。

(佐藤委員)

現役の時に心掛けていたのは、前年度の 1.2 倍にしないといけないということ。でなければ停留しているのだと考えていました。先ほど小川委員からありました生涯学習や何かの行事の予告というのは、広報でなされます。その実践の成果と活動した状況を発信することがすごく大事だと思います。広報では紙面が限られているので難しいかもしれませんが。何か町会の活動の映像や写真などそういうものを流してもらえる、あるいは、活動している先生方は成果が出たら自分たちでまとめて「こういう結果が出ました」と新聞社に発信していいと思います。別に売名行為ではなくて。スポーツとかであればある結果が出ると自動的に取材してもらえますが、文化面のほうはなかなか取材がありません。担当の顧問の先生に成果があったとき、もし取材してもらえて、こちらからその成果のまとめのような状態でお渡しすると、割合紙面に取り上げてもらえる機会があります。そうしますと、活動した人たちがすごい感激と意欲をもちます。また、それに関する問い合わせがあります。この生涯教育に関しても、発信したらそこに問い合わせ先メー

ルアドレスを載せるのもいいのではないのでしょうか。

(議長)

ありがとうございます。

相馬委員お願いします。

(相馬委員)

今、発信先というのがあったのですが、学校でブログを始めまして、公式ブログとして学校の子もたちの活動やPTAの活動の様子を発信しています。今の30～40代の人たちはホームページを見るよりも、スマホで、ブログを確認するというのが簡単なようで、毎日検索件数が900件とかになっています。そういうのも一つの方法であると思います。それがどこを主体で成立するか、SNSの関係ですので、色々な部分で問題も発生するかと思いますが。

(山形委員)

情報共有ということになると思います。学区まなびい講座でも、計画はみるけれども行ったことが共有されない。共有すればよいのですが。リーダーができないのは、何をやったらいいのかわからないから。ベテランはできるけれども、年配の方は情報機器に弱いと思います。逆に若い人は情報には強いけれども、リーダーとかには入っていけない。上手くやるためには、若者と情報共有すれば楽だと。色々な活動が情報共有されればすごく楽だと思う。公民館同士もつながっているのかどうか分かりませんが、学校は、はじめての仕事もきちんと情報があるからすぐどこにいつでもできる。悩む時間が無くてもとりあえず同じものはできる。あるいは他でやっているものを取り込むことから始める。よいものはどこでやってもよいのではないか。そして新しいものを行うことに少し余力を残しながら情報共有を上手くして欲しいなど。色々な公民館同士でも学区まなびい講座でも、どんどんやれば膨らむし、やり易いのではないか。

(議長)

ありがとうございます。今、お三方からいただいた情報発信、又は情報共有に関するコメントなのですが、施策の2の「学びの地域情報提供と地域コミュニティの活性化」、まさにこのところの期待する成果、目標につながってくるかと思いますが。一つは情報発信、それから情報共有。そして、事業を行った後の振り返りやそれを共有することで次の参加者への理解を促し増やしていくということ。それをまた市内でも共有していこうとする。そんなことがうまくシステムになっていけばいいのではないかと考えております。

(成田委員)

相馬地区は公民館や小・中学校からの情報とか、施設の情報とかが回覧板で回ります。募集もそうですが、「こんなことをやりました」とい

うものも回ります。警察の情報とかも一緒に回覧板で回ります。学校や公民館で何をやってどうだったかということが、広報を見なくても知ることができます。小さい地区なのでできるのかもしれませんが。それと公民館では、行ったことを公民館に掲示しています。写真とかを掲示してありますので、庁舎に行くと掲示しているところを見ることが簡単にできるので、すごくいいなと思っています。

(議長)

ありがとうございます。庁内もそうですし、公民館同士でお互いに見合うことでそれぞれの実践を共有することもあり得るかと思っておりますので、かなり複層的な情報共有ができればということかなと思っております。

また、情報共有をするための職員の学びですとかも非常に大事になってくると思いますので、そうした学習の機会をつくるということも関連するかとも思います。その辺りも視点にいられていただければと思います。

生涯学習課で意見をまとめていただきながら、市内の社会教育のプレゼンスをあげていくことが必要ではないかと思っております。総合計画の審議会をしながら思ったところですが、あまり集約しないでたくさん出していただければと思います。

では、ここで計画については終わりにしたいと思います。

~~~~~

**案件 ②「委員長、副委員長の選出」**

**(任期 令和3年8月1日～令和4年7月31日)**

委員長 生島 美和

副委員長 佐藤 義光

~~~~~

案件 ③「ひろさき教育創生市民会議 委員の任期満了に伴う次期委員の選任」

(任期 令和3年9月3日～令和5年9月2日)

選任 佐藤 義光 副委員長

~~~~~

今日の案件はここまでで終了します。ご協力ありがとうございました。この後事務局にお返しします。

**(生涯学習課課長補佐)**

これをもちまして、令和3年度第1回社会教育委員会会議を閉会いたします。本日は大変お疲れさまでございました。

その他必要事項

- ・会議は公開
- ・傍聴者なし